

第4回金沢版働き方改革検討会議 発言要旨

1. 開催日時 平成30年11月12日(月) 午前10時～11時30分
2. 開催場所 金沢市役所7階 第1委員会室
3. 出席委員 眞鍋委員(議長)、石野委員、北川委員、菊池委員、高井委員、長谷川委員、細田委員(以上7名)
4. 事務局 吉田経済局長 他5名
5. 次第 議題

- (1) 金沢版働き方改革推進プラン骨子案について(資料番号1～4)
- (2) その他(意見交換)

○意見交換(主な意見)

委員	<p>資料1の意見集約では、「金沢らしさ」について明記されていたが、プラン骨子においては「金沢らしさ」が明示されておらず、他の自治体と変わらない内容となってしまうので、「金沢らしさ」に関わる部分は、マーキングするなど明示した方がわかりやすい。</p> <p>宿泊業・飲食サービス業の事業所数・従業者数が2番目に多いというのは「金沢らしい」点である。しかし、一方で1人当たりの付加価値額は全業種の中で最も低いので、ここにスポットを当てても良いのではないか。</p> <p>資料2においては、金沢市の宿泊業・飲食サービス業の総実労働時間が短い。業種のイメージからしても、違和感がある。この要因は何が考えられるのか。</p>
事務局	<p>非正規の割合が高い業種であることや、今回は、常用労働者が30人以上の事業所の統計を取っている関係で、零細企業のデータが入っていない点も一因であると考えている。また、シフト制を組んでいることで総実労働時間が短くなっている面もあるのではないかと思う。</p>
委員	<p>特定の業種に特化したプランというものが、自治体のものとして問題ないか、他の委員の意見を伺いたい。観光産業に重点を当てた取り組みを行っていく可能性も考えていきたい。</p>

- 委員 全国的に見ても、宿泊業・飲食サービス業の1人当たりの付加価値額は低い傾向にある。
- 委員 実労働時間の調査対象である常用労働者にはパート社員も含まれる。宿泊業・飲食サービス業では、短い時間でシフトを組むパート雇用が多いため平均すると他の産業より短い結果となったのではないか。
- 議長 「金沢らしさ」をプランのどこに据えるかということは、これまでの検討会議の中でも課題であった。先ほどの発言にあったような特定の業種に重点を置いたプランというものは良いのか、委員からの意見を伺いたい。
- 委員 「金沢らしさ」は、資料4_P. 2の「主な特長」に集約されていると考えている。職場だけではなく、地域や家庭でも活躍できる金沢市を目指し、基本理念として「生涯にわたり働きやすいまち」という言葉にしている。
- 委員 これまで、金沢の産業と言うと、ものづくり産業に目が向きがちであったが、外からの目として宿泊業・飲食サービス業に目を向けられたことは貴重である。
- 委員 本プランにおける「働き方改革とは」を明示した方が良いと感じている。
- 委員 宿泊業・飲食サービス業に重点を置くというよりは、「働きやすいと言えば金沢」というイメージになるようなものが良い。
- 委員 宿泊業・サービス業の問題は、働き方改革の文脈でなくても取り組まなければいけないことと認識している。
- 委員 「金沢らしさ」や「本プランにおける働き方改革」を明示した方が理解しやすいものになるのではないか。

議長

働き方改革がテーマになっているので、どうしても職業や仕事に関するものというイメージが強いのだろうが、金沢のコミュニティを支えている地域活動と仕事の両立が「金沢らしさ」というのは、個人的には理解しやすい。

働き方改革の中で、地域活動が出てくるのがわかりにくいのではないかと思うので、その辺りをもう少し明確にしてほしい。

先ほど、説明の中で、女性の就業率が高い中で女性の就業をさらに伸ばそうというものがあつた。これまで、地域活動を担ってきた女性が働きに出てしまうと、地域コミュニティの担い手が減ってしまうことも懸念している。そのため、これまで働いていなかった高齢者や女性が働きに出る際の選択肢を増やすことを明示されると良いのではないか。

委員

高齢者も女性も就業率は高い状況にあるので、就業率をさらに伸ばすのは厳しいと考えている。ただ、企業アンケートの結果では、中間管理職や一般管理職において、今後増やしたい時間として地域活動を挙げる割合が少なかった。こういった方々が、地域で活動しやすくなるためにも職場の意識改革が必要ではないか。その結果、これまで地域でも職場でも役割を担ってきた高齢者や女性の負担が軽くなると良いと考えている。

委員

働き方改革は、①長時間労働の問題②正規・非正規の待遇格差の問題③労働人口が少なくなっていく中での働き手の確保の3本柱と理解している。

今回のプランにおいては、正規・非正規の待遇格差の問題に触れていないので、対策が必要ではないか。

事務局

正規・非正規待遇格差の問題に関しては、既に多様な奨励金制度等があるが、今後それを拡充していくことが市の役割と認識している。施策の中で位置づけていきたい。

委員

「金沢らしさ」＝「コミュニティを巻き込んで働き方改革に取り組むこと」という方向性は、他の自治体にはない特徴であり、良いと思う。

NPO を含めた地域と企業が一体となって取り組んでいくことを全面に出すと良い。

金沢市は、全産業がそろっていることも特徴である。

1人当たりの付加価値額は、全国に比べて低い状況だが、伸び率としては全国を超えている。業種ごとに全国との比較をしても良いと思う。

このプランのキーワードとして、1人当たりの付加価値額を取り上げるべきだと考えている。

また、労働時間は全国と比較して長く、有給休暇や男性の育児休業取得率の実績は全国より低いので、こういったものを指標にしても良いだろう。

事務局

業種別の1人当たり付加価値額は第3回検討会議資料の中でも取り上げた（資料2_別紙）。金沢市の中で最も低い宿泊業・飲食サービス業は全国より高い状況にある。

委員

国の掲げている働き方改革と金沢市のプランとの違いがわかりにくい。

金沢市において、女性の就業率が高い状況にあるが、それを支えるものが十分なのかは問題提起したい。保育所や学童保育、病児保育は地域によっては不足している状況である。

地域活動を企業と連携して行うのは「金沢らしい」という視点では良いことだと思う。

地域活動の時間を増やしたい人が少ないのは、仕事で手一杯だからではないか。まずは、仕事に対する男性の意識改革が必要だと思う。金沢イクボス企業同盟を中心にして進めていただきたい。

- 委員 自治体のプランとしては当てはまらないのかもしれないが、メリハリのついたプランにすると良いのではないかな。
- 資料4「6 プランの基本的な考え方」を見ると、バランスが取れているところが金沢の良いところだと思う。
- 強いところを伸ばす施策と弱いところを補完する施策を、表現として明確に分けると「金沢らしさ」が出てくると思う。表現方法の工夫が必要である。
- 地域活動に重点を置くのであれば、KPI（重要業績評価指標）を設定するなど一つの柱にしてはどうか。
- 地域活動における KPI の設定としては、企業アンケートで聞いた内容を再度、計画期間終了時に確認し比較をすれば良いのではないかな。
- 委員 推進体制については、今後検討を進めていく必要がある。
- 具体的な施策が出てくると、働く者の立場としては理解しやすくなる。
- 事務局 第5回の検討会議においては、推進体制も含めて提示する予定である。
- 委員 地域活動の推進に関する記述は、プランの体系の中でどこに位置づけられているか。具体的な施策として出てきていないので、明示した方が良い。地域と企業が一体となって働き方改革を進めていくということを明示した方が良い。
- 事務局 「施策の方向性」の「⑩育児・介護、治療や地域活動等と仕事との両立に向けた環境の整備」に盛り込みたい。
- 委員 資料4の「目指す成果」において、「高齢者や女性の更なる就業率の向上」という表現は見直したい。
- 産業全体の1人当たり付加価値額は、特定の業種に特化した方がKPIの設定はしやすい。

議 長	今後は、骨子案を庁内横断組織である「働き方改革推進本部」と調整し、今月下旬からパブリックコメントを行う。本検討会議でいただいた意見の骨子案への反映は、議長と事務局に一任させていただきたい。
事務局	今後は、骨子案の最終的な調整を行い、パブリックコメントの手続きを進めた後、「働き方改革推進プラン（案）」として、次回の検討会議で提示したい。

以 上